

スタディーツアー お題「安心・安全な離島生活を営むためには」

私は、安心安全な離島生活を営むために「観光との両立」が不可欠であると考えます。何故なら、観光で賑わう式根島において、島民だけでなく観光客の存在も考慮しなくてはならないからだ。

式根島は面積 3.9 平方 km、周囲が約 12km と、非常にコンパクトな島である。標高 99m にも及ぶ神引山など、山々が連なる影響もあり、島内での高低差が多く見受けられた。自動車や電動自転車であれば移動は容易だが、エネルギーが不足する災害時には、徒歩での移動が強いられる。特に、式根島は人口の 4 割以上が 65 歳以上の高齢者であるため、避難に負担が生じてしまう。仮に徒歩以外の手段があったとしても、道路の本数が限られているため、1 つ塞がれてしまえば徒歩で行かざるを得ない。また、避難経路案内は色褪せているものが多く、瞬時に判断することが出来ない状況にある。これは、島民に限らず観光客も同様に困難が伴う。

観光客に視点を当てると、ピークである夏への防災対策に疑念が募る。来訪者の行き先として、まず海が挙げられるだろう。しかし、泊を始めとした海水浴場の多くは、浜辺までの通路が狭い 1 本道である。その中で、パニック状態の渦中、大勢が避難することは不可能に近い。南海トラフで予想される 29m の津波に備え、避難経路の確保と迅速な判断が欠かせないのだ。

また、幸い避難できたとしても、電力調達に課題が生じる。新島から供給を得ている式根島において、回避不能な問題である。夏場は空調や冷蔵庫などといった温度管理は必須であり、その上観光客を含めた母数の変化にも対応しなくてはならない。その対策として導入された電気自動車が普及し始めているものの、蓄電池として機能しない現状にある。それ故に、エネルギーの配給に関しても柔軟な対応が求められるのだ。

したがって、式根島は災害時においても観光客との共存が肝要であり、総数の変化にも対処していかななくてはならない。以上から、安心安全な離島生活を営むために「観光との両立」という視点がなくてはならないと考えた。